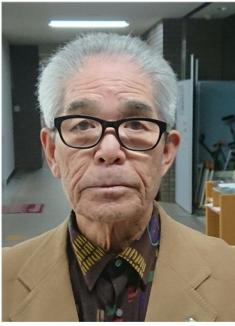


豊かな資源と
住民の魅力ある個性で
心に残る観光を



浜益観光まちづくり
推進協議会
会長 相馬 保

ル情わめん と人いと まで鉄こす にク～
夕報かてだこいドがた媒ます行道ろでかつ中の～
イ発も年このつと集の体た、 えやが移つい田支
ム信ん配と時てし客もで、 て航現動てて浩援社会の
でに会者は代もてに特 し空在と旅日康と
発努やが木の過フ影徴気輕ア響の軽い研の師域設立
信め地苦！ 变言ア響の軽い研の師域設立
して域手ム化でンをひに情報をと情報の
いおとペにはを与えつ報を發信するジ
観まこす！ 対あ獲えつ報を發信するジ
光すしるジ応り得たりす。 協部のすまで
で。 協部のすまで
訪浜力分開べんく、 時約ソが理最い
れ益隊で設く、 時代なコ主店中觀有
てののはでく魅力あす。 時代あとあるよ
れ力をります。 時代あとあるよ
れるを借ま私取
人りりすもり
はア、 が含組
たガ個なツ



実田で採取したオオムラサキ



関係団体による文化祭出展



福島の子どもキャンプin浜益

丸流での本益 にも
力た あります。 こちら
力引昨年 までは生最のま
をき年 なれん、 ばん、
お続の観光 まつておられます。
願き経験 まつておられます。
い実験 まつておられます。
資風景 まつておられます。
話りたの まつておられます。
標准地 まつておられます。
し施組 まつておられます。
す組め、 まつておられます。
本を活用 まつておられます。
まし活かす。 まつておられます。
ます。 まつておられます。
常日 まつておられます。
も漁師や農家の仕事現場 まつておられ
ます。 まつておられます。
浜益区民全員の個性が魅 まつておられ
ます。 まつておられます。
一新 まつておられます。



今年はこんな風に
考えています

浜益に人を呼び込み
外貨を獲得する
仕組みづくり

莊内藩陣屋跡散策



浜益区民や子どもたちも
楽しみながら地元の魅力
を再発見できる行事や講
座を開催します

フットパスウォーク



「浜益まで行ってみよう！」
と人を動かすようなPRの工夫
さらなる情報発信に努めます



コウモリ観察会

黄金山のイチイの木を訪れる・スノートリシューが行われました

会市ア木
1月に黄金山の麓にある、樹齢1500年のイチイの木を訪ねました。石狩の旅行会社・NPO法人ゾロッタビーンズ・石狩協議会が開催されましたが、来賓として浜益観光まちづくり推進協議会・石狩・樹齢1500年のイチイの木を見に行きました。この木は、樹齢1500年を超える老木で、その大きさと歴史的価値が認められ、2020年に黄金山の麓に設置されました。この木の周りには、雪遊びやスノーボードなどの冬の楽しみ方を示す看板が設置されています。



いい争だ識両そ
なイはうを木つし私親う樹
いチ気勝はたかたまで木
トイ決のちどりなちで医
いのし遠抜れすい住連初さ
う魅てくいでるも民れめん
こと力当なたもののにてきあ
ことといたるもすででは
が前うだすくすも、あんた
がりよのくすね。ヨソなどか
が発冬のなげくと育つわけ
見で存年が生きてるそ
でも人を呼び込めるチャンスはゼロじ
1500年と
1500年ほど
300年ほどの木は見た
と興奮

地域資源を活用するための 自然環境調査から見えたもの

このたび「浜益区の地域資源を活用するための自然環境調査業務検討会」という会議に参加させていただきました。

要するに、植物や鳥、魚など、浜益にはどのようなものが生息しているのかを調査し、その結果と有効活用について話し合うものです。

区外で自然環境に関わるお仕事をしている方が集まってくれて、浜益の魅力について教えてくれました。

適度な距離に海と山があること、イチイの木や千本ナラのような巨木があること、鮭の遡上を見ることができる環境、増毛山道に濃屋山道…。景勝地だけでなく花や鳥を探すことでも楽しんでもらえる環境だそうです。

都会の子ども達の自然体験の場にもぴったりとの声もありました。地元の子ども達との交流も兼ねて一緒に何かするのもいいですね。

外部の人たちの目線で語られる浜益は、「正直今まで通り過ぎていた」場所が、実は宝の山であったという感じで、私にはまだ全ての魅力は分からぬものの、もっと自信を持ってPRしていくのだということが分かりました。（M）



都会の人に農業体験をさせてくれる 協力農家さんを募集します



繰り返しになりますが、今お客様が求めてるのは「体験」「ふれあい」です。特に食への関心は大きくなってきていますし、子どもに食育の一環として「農業を体験させたい」と考える人もいます。

そこで農業体験を通して、浜益を自分の田舎のように感じてくれる人を増やしていくたいと考えています。

イメージとしては、1件に1~2組の家族を受け入れてもらい、田植えと稲刈りを体験。もちろん野菜の植え付けや収穫などの農業体験もOKです。

はじめのうちは対応にも慣れないし、農作業は進めなきゃならないしで大変かもしれません、受け入れた家族があなたの応援団や営業係になってくれる可能性は大いにあります。

この企画はボランティアではなく、きちんとお金をおいていただくものです。抵抗を感じる人もいるでしょうが、長く持続していくためには大切なことです。

受け入れのための事務的な作業は協議会にて引き受けますし、当日のサポートもします。興味のある方は事務局までご連絡ください！